



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「不離一体・中小企業経営に役立つ同友会活動の実践」 ～ 同友会活動が企業を支え、地域を育てる ～

第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催報告

時代の大転換期に立ち向かう覚悟と実践 「人を生かす経営」を広げ、地域再生を

日時 2019年
2月21日|木| 22日|金|

会場 ホテルニュー長崎、ルークプラザホテル、
サンプリエール、ザ・ホテル長崎BW プレミアコレクション



目次

第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催報告	1	会員活躍	17
各界からの提言	2	事務局企業訪問	18
第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催報告(全体会)	3	新入・交代・復会会員紹介	19
第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催報告(分科会)	4	理事会報告	21
第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催報告(懇親会)	14	会員動向・会員数	22
第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 ご来賓一覧	15	4月例会案内	23
第4回 中同協 共同求人・社員教育合同委員会 参加報告	16	実行委員長より長崎全研を終えて	24
What is 共同求人?	16		

各界からの提言

大村市長 園田 裕史



プロフィール

■生年月日：昭和52年2月18日

■最終学歴：平成12年3月 福岡看護専門学校卒業

■略歴

平成12年4月～平成13年3月 大村市立病院（現・市立大村市民病院）

平成13年4月～平成19年5月 大村共立病院

平成19年5月～平成26年9月 大村市議会議員

平成27年5月～平成27年11月 大村市議会議員

平成27年11月～現在 第22代大村市長

長崎県中小企業家同友会におかれましては、昭和47年に創立以来、同友会三つの目的「よい会社をつくろう」、「よい経営者になろう」、「よい経営環境をつくろう」の実践を通して、中小企業を取り巻く社会、経済、政治的な環境変化に対応し、地域の発展に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、去る2月21日、22日には、「第49回中小企業問題全国研究集会in長崎」が盛大に開催され、全国から参加した約1,300名の会員企業が、経営問題の解決やそれぞれの企業の使命に正面から向き合う姿に大変感動しました。

さて、本市は平成25年12月に大村市中小企業振興基本条例を制定し、この条例に基づき、平成26年度から大村市中小企業振興会議を設置いたしております。毎年開催している同会議では、中小企業者の抱える課題が審議され、市に対し様々な提案があっており、「大村市産業支援センター」の設置、「若年層の地元定着を目的とした市内企業の説明会」の開催、「人材育成にかかる研修会等の受講料や資格取得のための受験料に関する支援」などを事業化いたしました。さらに、本年2月には、市内事業者をウェブサイト上に集約

した企業紹介サイト「おむナビ」を開設いたしました。

先の全国研究集会in長崎の第12分科会では、同友会大村支部が中小企業振興会議の旗振り役となり、様々な施策実現に繋げたことを報告し、また、たくさんの中小企業者や関係機関の方からのご意見を傾聴する中で、地域の発展には中小企業の発展が欠かせないものであり、同分科会での報告のテーマであった「地域づくりの鍵は中小企業が握る」ということを、より強く感じました。

全国的な人口減少の状況の中で、大村市は県内で唯一人口が増加している市であります。今後は県立・市立一体型図書館及び大村市歴史資料館の複合施設「ミライon」の開館、新工業団地の分譲開始、九州新幹線西九州ルート開業に向けた新駅の周辺整備などを予定しており、「行きたい、働きたい、住みたいしあわせ実感都市 大村」の実現に向けて、中小企業者の皆様と連携しながら取り組んでまいります。

結びに、長崎県中小企業家同友会の今後益々のご発展並びに会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念いたします。



私は当初、記念講演部会の部会長として実行委員会へ参加してきました。途中組織変更のため全体会部会の部会長に変更となり全研2日目22日の全体会及び田上長崎市長の講演、高田社長の記念講演までの運営の準備を担当することになりました。

田上市長との打合わせは事務局及び前部会との内容を引き継ぎ、高田社長においては記念講演への出演のお願いからのスタートでした。記念講演への出演お願いについては実行委員長をはじめ実行委員会の皆さんのお力をお借りしてお願いし、快く承諾いただきスムーズに進めることができました。またホテル側との細かい打ち合わせについては、ホテルニュー長崎の担当の方と事務局を通して進めていきました。会場自体を横向きにするのかあるいは縦向きにするのか、またサブ会場を設けるのか、なかなか決まらず大変苛立ちを感じながら進めていました。

しかし何度もシミュレーションしたことで最善策が浮かび上がったことは事実であり、大変良かったと思っています。また中同協からの貴重な意見もいただくことで、開催地のわからないことも見え、ありがたかったです。

またホテル側とは、細かいところの確認ができておらず、当日朝からドタバタして準備してもらうことになり申し訳なかったと思っています。大事なことはホテル側

に直接お願いするべきだったと反省しております。

当日はメイン会場サブ会場も満席状態となり多くの皆さんに参加していただきありがたく思っています。満席状態だったので、会員の皆さんに迷惑かけたことも多くあったのではないかと反省しています。

田上市長からは、「被爆地の市長として」というテーマで講話をいただき、参加者は平和であることの大切さや、平和を自分のこととして考えることができたのではないかと思います。

高田社長からは、「夢持ち続け日々精進」というテーマで講演していただき、参加者は伝えることの大切さや、「今を一生懸命生きる」、「ミッション、パッション、アクション」など、これからも頑張っていくぞという、たくさんの元気を与えてもらえたと思っています。

全体を通して思ったことは実行委員会において、細かい内容の確認ができていなかったのは大変残念に思っています。それを証明したのは、分科会のメイン看板です。大きさの検討すら、実行委員会においてできなかったことは、すごく残念に思いました。

しかし、結果的に全国から参加された皆さんは喜んで帰られたとお聞きし安心しております。協力いただいた全体会部会の皆さんをはじめ実行委員会の皆さん大変ありがとうございました。お疲れ様でした。

(文責 全体会部会 部会長 大塚 真一)

第1分科会(中同協)

社会・経済・技術の転換期における中小企業経営

～有機的連携(同友会)の可能性～

明治大学グローバル・ビジネス研究科 専任准教授 藤岡 資正 氏



室長 吉澤 健(長崎浦上支部)

一人の欠席者もなく100名全員が参加されました。会場案内、運営と長崎同友会会員さんのご協力に感謝いたします。

当分科会は、第4次産業革命など時代の転換期に中小企業が維持発展していくため、企業として経営者としての時代認識を深め、企業経営に生かす契機にする驚きの報告でした。

藤岡氏は、IT技術の急速な発達企業が経営にどの



ような影響を及ぼすのか。従来の「アジアと日本」という図式ではなく、「アジアの中の日本」という構図で捉えることが重要との報告に、私自身の視野の狭さに愕然としました。

更にリーダは常に変化の向こう側を思い描き、正しい問題意識、危機意識、当事者意識をもって対処すること。「考えて動く」のではなく、「考えるために動く」ことが大事。羅針盤片手にとにかく出航しチャンスをつかみとる！素晴らしい報告内容でした。

以下、参加会員さんの報告です。

長崎浦上支部 内山 洋二

分科会はチョットしたショックなご報告でした。以前中同協の企業連携推進協議会に参加した折、お聞きした「チュラロンコン大学サシン経営大学院日本センター所長」の肩書でした。

長崎そして日本の見方を膨大な資料を示して説明いただき、私の認識が如何に間違っていたかを思い知らされました。

長崎の立ち位置は、東京や大阪まで行くと何となく解ったような気がしていました。アジアに行くと日本を見ないと今の日本のことはわからない。日本のことを知るためにアジアに行けとは、考えてもいませんでした。

20年前、日本はアジアのトップ、現在、アジアのトップは勿論中国です。経済規模は日本の3倍、東南アジアも日本の経済規模に迫りつつあるそうです。「アジアを見る認識を変えてください」と。実質賃金は、20年前を100とした場合140になろうとする国がある一方、日本は90にも満たない現状。タイのチュラロンコン大学の生徒が卒業まで約700万円自費で出すそうです。卒業すると日本ではなく、アメリカに就職したいと希望を出すそうです。

IoT(あらゆるものがデジタルで繋がる)、破壊的な革命の中、業界そして産業の壁がなくなり、車が

家電になる(タイヤを履いたコンピューター)。

アジアがさらに台頭してくる時代、アジアの時代が到来するその時、我々日本人は何をしていくのか。日本がアジアの一員として成長していくことを考えていかなければならないと。そのためには自分の軸足はブレさない事は勿論、未知の世界に船出する覚悟、そして羅針盤がいるとのご報告でした。

アジアでは今後少子高齢化が加速し、公害がさらに進むことが予想されるそうです。そこにこそ日本企業の生きる道もあるのではないかと藤岡氏は語っておられます。

グループディスカッションは、9つの同友会から参加、業種も多岐にわたり、日本というキーワードはありますが、それぞれの環境には違いがありました。

インドネシアの2つの工場は、日系自動車関連企業への納品が中心、それ以外は納品できないほどです。一方国内では、顧客のニーズを的確にとらえた提案営業で今後も期待できるなど、一様に国内中心で海外進出は考えていないようです。報告内容には驚きと新たな気づきはあるものの、アジアへ行って日本を見ようと思われた方は少なかったです。

私はとにかく一度、アジアの展示会に出かけ、そこから感じる日本そして長崎を見ようと決心させていただきました。

第2分科会(愛知)

「人を生かす経営」を世界標準でとらえ直す！

～SDGs(持続可能な開発目標)と中小企業経営～

アサイウッドマテリア(株) 代表取締役
愛知同友会 理事 **浅井 勇詞 氏**

アドバイザー

(一財)アジア・太平洋人権情報センター 特任研究員 **松岡 秀紀 氏**



室長 **野田 洋市(佐世保支部)**

浅井ウッドマテリア(旧社名:浅井合板工場)は1920年に創業、社員50名を抱える合板加工・木製窓枠製造会社である。代表取締役の浅井さんは合板、木材を取り扱っているという責任感と、自然の恵みである貴重な木材をできる限り無駄なく利用する使命感を持って事業運営に取り組まれている。

2005年に同友会に入会され、憲章学習運動を基に中小企業憲章草案にふさわしい企業を目指され経営理念の見直し、経営指針書の修正、共育ち、個人面談と社会学習会、新卒採用、高校生インターンシップ、働き方改革、エコアクション21と積極的に自社経営に取り組まれている。また適切な法規制・条約・ルール等の国家間での取り組みも必要と考えられている背

景に同友会会員企業の取り組み事例外部発信、諸団体、海外の民間団体との交流を通し「労使見解」の精神を広げていく必要があると考えられている。

このような浅井社長の思いとリンクするように2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)。SDGsの重要な原則は人権であり、同友会の掲げる「人を生かす経営」一人ひとりの人権を実現する企業づくりに共通する。グループ発表においても「中小企業憲章草案の(中小企業は)の部分(自社)に置き換え、しっかりと自社経営に落とし込む。更に(社員が)の部分(私)と置き換え実施するところまで行き共育ちのできる環境を目指すことが大切。」「SDGsとは特別にとらえるものでなく自社の中で人権・労働環境のあり方を見直す。まさにそこに取り組むことが大切であることを学びました」と活発な発表が繰り広げられた。



第3分科会(福岡)

事業承継は経営者の最も重要な仕事

～いかにして承継するか～

(株)紀之国屋 会長
福岡同友会 相談役理事 **中村 高明 氏**

アドバイザー

釜堀税理士事務所所長・税理士法人コスモス顧問 **釜堀 隆司 氏**

室長 **徳丸 雅典(佐世保支部)**

「後継者難による黒字廃業が急増している。このままでは中小企業固有の事業基盤やノウハウは失われ地域の雇用も損失していく。」日本経済が抱える深刻な問題点の認識から報告が始まる。まさに中村さんが同友会において事業承継塾を立ち上げたきっかけである。

事業承継には①経営そのものの承継②自社株式・事業用資産の承継の2つがあり、誰にどのように承継し



ていくか具体的にその手順が報告されていく。10年間の事業承継計画書の作成ではサンプルをもとに実務的なイメージを参加者に与える材料となった。

後継者選びとして必要な能力とは『俯瞰して状況を見る目』『近づいて様々な角度から見る目』『潮の流れ



を見る目』いわゆる3つの目を持ち備え、人間として素直であること説く。自身の後継者選びでは事業を渡す側の心構えとして引き継ぐ側の立場に立って考える配慮が必要であると訴える中村さんに相手の立場に立って考える人間性が浮かび上がってくる。

アドバイザー釜堀氏による「新・事業承継税制」の解説では専門的な内容であるにも拘らず明快でわかりやすく、税制を受けるメリットだけでなくデメリットも理解することができた。納税を猶予するだけのものではないとしながらも特例措置のポイントを解説し、今や不動産売買のように取引されるM & Aにおける承継の注意点を助言する釜堀氏に対する参加者の真剣な眼差しが印象的であった。

補足報告の時間を費やし「すべての質問事項に答えたい」と各グループの質問事項に丁寧に答える姿や「引き継ぐことに寂しさを感じる」と話す中村さん。後継者難で廃業し、同友会を去っていった仲間を救ってや



りたかったと話す座長の末武さんの言葉は参加者の心に響く。経営者にとっての素直さとは何かを感じる場面であった。

報告者はなぜ事業承継が経営者の最も重要な仕事と言い切れるのか。それは経営者には想像力が必要だからである。自分の会社はそうはならないだろうと思わないか、顧客、後継者、社員やその家族の立場に立てるか、技術や雇用が失われていくことが将来の地域社会にどんな影響を及ぼすかを考えることができる力である。

企業における自社分析、事業計画、教育、資金調達などを事業承継という切り口で考えることにより、経営者にとって最も重要なことが見えてくる報告であった。

第4分科会(北海道)

職人激減の危機に我々はどう立ち向かうのか

～技能を伝え、地域を守る～

武部建設(株) 代表取締役
北海道同友会 南空知支部幹事

武部 豊樹 氏

アドバイザー

東京大学工学系研究科 建築学専攻 特任准教授 榎藤 智之 氏



室長 浦崎 健治(佐世保支部)

武部さんは北海道岩見沢市で建設業を営む。従業員29名の創業72年の企業である。一般建築から北海道ならではの断熱気密性の高い省エネ住宅、古民家再生など独自のノウハウで地域密着の家づくりを行う。その中で時代と共に職人の確保が厳しい昨今、大工の



固定化・安定化を念頭に、大工を社員化し、正規雇用で雇い入れている。仕事が少なくなる冬場も正社員なので安心して働ける環境を整備している。しかし志望者が少なく離職率の高い大工の世界を変えようと、小学校での出前大工授業、中学校でのキャリア授業、高校・専門学校・大学では学校訪問、インターンシップ受入れ、現場見学等の地域密着型の採用活動で若い世代の関心を高めている。教育活動も熱心で大工塾の開講、産業団体との連携による人材育成、大工ネットワークの立ち上げなど様々な取り組みを行い、一人ひとりの職人を大切に育てている。

今回印象に残った内容で【大工は「コスト」か「パートナー」か?】という興味深い問題提起があり、グループディスカッションでも様々な意見が出た。人件費・人材(人財)に置き換えても、簡単にどちらとも言えな

い難しい問題である。「コストをかけてパートナーを育てる」と理解する考え方もある。武部さんはIT・AI化が進んでも、大工の職業は無くなると断言する。墨付けや手彫りのハンドメイドに拘るのが伝統技能で職能である。この技能を伝承するには、武部建設だけでなく、すべての工務店経営者の「人を育てる、技術を育てる」意識改革と、工務店団体や業界全体での大工育成へのチャレンジをしていくことが大切だと熱く語られた。

またハウスメーカーと工務店の差別化で、短工期でコストも手頃なメーカーと、工期はかかるがカスタマイズや拘りを反映できる工務店の特徴を明確にし、顧客の選択肢を広げ満足のいく家づくりに取り組まれている。



アドバイザーの権藤氏からは海外住宅事情や大工の現状を話され、海外でもやはり大工などの職人減少で人材難である。有能な技術者は日系企業等へ流れ、町の大工が減少している。日本のような注文住宅は高級で、建売住宅が一般的であるとの話であった。

結びに、武部さんの仕事への情熱と、仕事を越えた人への愛情・心は、過去の積み重ねられた成功や挫折に裏付けられた学びと実践であることに間違いはない。

第5分科会(中同協)

外国人労働者制度のあり方と中小企業の対応

～諸外国の事例を踏まえて～

独立行政法人労働政策研究・研修機構 副統括研究員 呉 学殊 氏



室長 井手 眞悟(北松浦支部)

日本における生産年齢人口の減少により、国内の外国人労働者数は127.8万人と過去最高を更新し、5年連続の増加となりました。政府は、外国人就労の一定の拡大をさらに進める方向で検討をしているが実質的に制度的な受け入れ態勢も未政策、また外国人技能実習生の労働環境の劣悪さなどを懸念する声もあり、分科会では、韓国、また諸外国の外国人労働者政策の動向なども踏まえながら、日本の外国人労働者制度のあり方と中小企業としての対応を考えることを目的として分科会が開催されました。

まずは、日本の外国人労働者制度の成果と課題について報告がなされ、特に2017年に制定された「実習法」について実習法の内容と特定技能制度の導入予定について説明がなされました。そこで、韓国の制度について労働人口と外国人労働者の推移の現状と韓国において2004年から導入された「雇用許可制」について内容と変遷について報告いただき、外国人労働

者制度のあり方としては、「契約自由と移動」「労働力の需給バランスの確保」「人権と適法性の確保」「産業構造の高度化と地位維持向上」などの整合性など、望ましい在り方について報告いただきました。

グループ討論では「日本における外国人技能実習制度」の現状と今後のあり方についてディスカッションし、各グループにおいて実際に技能実習生を受け入れている事業所の話聞き、現状を把握しました。結果、日本における技能実習生は技術実習のみに限らず労働力確保も含め必要であるが、受け入れ事業所における温度差を感じました。やはり技能実習生の送り出し機関の温度差、また受け入れ機関の温度差もあるようです。技能実習生においても技術習得を目的ではなく収入目的であることも過言ではない現状であります。

もう一つの討論テーマは「外国人労働者について、自社での対応をどのように考えますか?」でした。これについては「技能実習生は必要不可欠」であり日本人社員の教育にも貢献しているとの意見もありました。

私もここ二年、ベトナム、インドネシアの送り出し機関へ訪問し、技能実習生予定者と交流していますが日本への想い、不安を抱え一生懸命学んでいる姿を見るとき「受け入れ国の制度のあり方」について日本自体が制度のあり方を施策すべき点があると思います。





最終的な座長のまとめとして、外国人労働者の位置づけをどう考えるかという問題は、置き換えると中小企業の位置づけの問題と共通しているのではないかということから始まり、韓国

の外国人労働者政策から学ぶべき点として、次の3点をあげられました。

- 1 運用の透明性が確保されている
- 2 企業の自立性・選択権がある
- 3 人権・平等性が確保されている

また、同友会会員として、地域経済を活性化するという目標をもって企業経営に取り組んでいることを確認し、その根幹にかかわる問題として企業間格差が広がる中、公正な取引を実現していくこと。その中で外国人労働者の問題も含めて政策のあり方が変わっていくのではないかというまとめで締めくくられました。

今回、報告いただいた韓国の「雇用許可制度」も大変学びになりました。是非日本も今後、労力確保も含めあるべき制度制定が必要と感じた分科会でした。

第6分科会(長崎)

今時代に必要なものは

～なぜ長崎はダイバーシティ委員会へ変わったのか?～

(有)エス・ケイ・フーズ 取締役
長崎同友会 副代表理事

中村こずえ 氏

(有)菅原産業 取締役
長崎同友会理事・ダイバーシティ委員長

菅原千代枝 氏



室長 寺尾 昌晃(諫早支部)

第6分科会なぜ長崎はダイバーシティ委員会へ変わったのか?全国では、障がい者問題担当委員会、女性部会などがある。

中村さんは障がい者雇用をきっかけに、同友会との出会いがあり、是非あなたは同友会に入るべき人です。と言われ同友会に入会後は、女性部会・障がい者問題担当委員会を立ち上げる。

ただそこには疑問が出てきて、なぜ分ける必要があるのか、中村こずえは一人しかいないし、これからは、障がい者だけではなく、女性、高齢者や、LGBTなども考えていかなければならないのでは。今こそダイバーシティではないか?アメリカから来ているマクドナルドにとっては、ダイバーシティは当たり前である。

理事会でダイバーシティ委員会に名前を変更してください!と何度も何度も何度もお願いしてきたが、なかなか理解を得られずに、涙涙の日々だった。

菅原さんは当時、母が缶選別の仕事をしていたが、重労働だった。ハローワークに募集をかけていると、つくし学園から同じ缶選別の実習をしているから、一度実習をしていただけないか?とお話があり、実習を行い雇用へと繋がった。採用して会社の雰囲気まで明るくなり、障がい者でもなぜこんなに仕事ができるのに、雇用先がないのかと悩んだ。そんな時に、中村さんと出会い、同じ想いに共感した二人は涙涙。同友会への入会となった。それからダイバーシティ委員会への名前の変更を理事会へ申し出るが、なかなか変更できずにいた。そしてやっと、2017年ダイバーシティ委員会へと変更することができた。

長崎は和華蘭文化で、ごちゃまぜだ。長崎は昔からダイバーシティだったのだ。今までのダイバーシティ



委員会の活動として、女性の活躍や、特別支援学校、外国人の雇用についてなど、例会を行ってきた。ダイバーシティ委員会はまだ発足してから短い、今となつては長崎同友会になくなくてはならない委員会に成長したと言えると思う。これから先、ダイバーシティ委

員会はなくならない委員会である。

ダイバーシティ経営を通じて、人を生かす経営の実践こそ、多様な人材を生かすことができ、共に生き共に育つ企業づくりができると考えている。

第7分科会(岩手)

次の時代を創る農業後継者の育成へ向けて

～金融、行政、農業経営者、企業が協力で励まし合い描く10年ビジョン～

岩手県信用農業協同組合連合会 代表理事理事長 菅原 和則 氏

東日本機電開発(株) 代表取締役
岩手同友会 副代表理事 経営労働委員長 水戸谷 剛 氏

(株)馬場園芸 代表取締役
岩手同友会 県北支部幹事 馬場 淳 氏

アドバイザー

中同協 専任講師 松井 清充 氏



室長 城尾 忠明(長崎出島支部)

食糧自給率100%、農業が基幹産業立県としての岩手県。その報告は後継者不足の危機感と「農と食」が国を支え地域を発展させるという自負・責務を感じる先進的内容。

菅原氏は、全国初の農業経営者や後継者、農業法人などを育成するため岩手同友会と協定を結び「農業法人経営塾」を開く。その想いに確信を与えたのが水戸谷さん。農業の現場の声として、若手農業者から「本格的に経営を学ぶ場がほしい」「経営の勉強だけではなく、さまざまな取り組みを連携してはどうか」と提案を受け奮起。水戸谷さんを中心に経営理念や10年ビジョン、経営方針、経営計画を身に付ける場として塾は隆盛、農業と中小企業は共に地域を支え発展させる重要な関係と相互協力と取り組みを継続。その原動力となっているのは20代の同友会で学ぶ農業後継者たち。

馬場さんはその代表的人物であり、塾の一期生。2009年に家業を継ぎ、農業雇用の安定環境を、自社だけでなく地域の農業経営者の事業後継を押し測り地域社会が輝く事を標榜する。主力農産物としてホワイトアスパラガスに着目。「畑から届ける最高の贅沢」



をお客様に提供すると同時に「伝えること」の大切さを学ぶ。「農業は幸福創造業、私たちは、作り手本位ではなく、何よりも食べる人のことを思い作られた食材で満たされる未来を創っていききたい。生命や風土、文化を未来へ繋いでいくことが私たちの使命」と報告。10年後は地域をホワイトアスパラガス産地へと拡大し10万人規模の「ホワイトアスパラガス祭り」を開催し、定例化、輝く地域を創造する、と夢は続く。

地域農業の後継者課題に岩手県信用農業協同組合連合会と岩手同友会の連携した経営塾、そこから育った若き25名を超える修了生である農業後継者たち、自社の発展には地域の全ての農業経営者の後継者問題を乗り越えた発展でしかあり得ない。報告者の連携・連動したメッセージから農業分野のみならず「地域の発展」とは、かくあるべしと感じ取った。この先進的取り組みは水戸谷さん、馬場さんをはじめとする会員の熱い想いと、それを伝える力、また組織の違いを乗り越えて地域の課題に取り組む岩手県信用農業協同組合連合会の菅原氏の熱意によって熟成していく。「誰一人欠かせない、誰ひとり置き去りにしない」日本の地域において基幹産業の主たるものは違えども共通にある理念であると感じた。



第8分科会(京都)

理念を掲げ、挑戦続けて20年、 人口8万、地方都市での攻めの経営

(株)HORI 建築 代表取締役 京都同友会 堀 昌彦 氏



室長 田中 清隆(長崎出島支部)

堀さんは、工務店であるお父様の背中を見ながら育ち、ものづくりへの情熱をもち他社との差別化を図り順調な経営をされています。しかしこの順調にたどり着くまでにはいろいろな困難がありそれを乗り越えられた経営手腕は素晴らしいものがあります。

同友会と出会い経営者のあるべき姿と出会い経営指針づくりで社員とお客様に対する考え方が変わり工務店の本質を実践されています。販売主義ではなく幸せづくりを掲げ社員、職人が育ちお客様が一番大切なモノを知ること三位一体の家づくりを実現されています。お客様の感動をもとに一生涯のお付き合いで地方



都市での攻めの経営を実践されています。参加者も同業の会員が多数参加され活発な意見交換が行われとても良い分科会になりました。

第9分科会(東京)

下請けから「IT+医療+アジア」への展開

～医療産業への戦略的参入と同友会水平連携によるアジア進出～

(株)ユーワークス 代表取締役
東京同友会 経営労働副委員長 文京支部副支部長 吉本 英治 氏



室長 田浦 健吾(諫早支部)

第9分科会は参加者も多く、グループ発表では全グ



ループが挙手し、とても盛り上がった分科会になったと思います。

IT事業の報告でしたので、全国からIT経営者が集まり、脱下請け、事業展開について熱く語り合っていました。室長の席からもその熱気が伝わりました。逆にITから遠い分野の方にとってはピンと来ない話も多かったのかもしれません。

吉本さんは2011年、東京のIT経営者として下請けの仕事を多くされていた中、東日本大震災に遭い



ます。福島に家族を持つ社員が「家族と連絡が取れない」と休暇を希望。もちろん承諾するつもりで取引先に許可を得るため電話を掛けたところ「納期間際なので駄目」と言われ「やってられるか!」と脱下請けを決意。

そこから地道な努力でトラブルに見舞われながらも、文京区という地の利と経験値を生かし医療機器事業へ参入。

その後もミャンマーへの海外展開、社員の待遇も向上、残業も減り下請けから華麗なる転身を遂げ、終始「痛快」な報告でした。同友会での学びや出会いが吉本さんを後押ししていたようです。

座長は同じく東京同友会より、(株)日の丸ディスプレイ代表取締役の新崎博さん。



お二人とも例会等での報告には慣れた様子で息が合っていました。なんと同友会が縁で共同でビジネスもされているとのこと。その話が印象的なのですが、お二方を含め同友会の会員企業6社共同で海外展開をされているそうです。

アジア展開は殆どの日本企業が1年前後で撤退している中、複数社で、しかも「同友会」という気心の知れた間柄だからこそ生存確率を高められたのでは、とのこと。海外ならではの理不尽なトラブルや苦労話も多かった中、吉本さんは終始笑顔で、軽いノリで報告されていました。その顔には全く悲壮感がなく、言葉の端々で社員への愛情が感じられ、この周囲を巻き込む吉本さんの人間性こそが、まさにユーワークスの今をつくっているのだと確信しました。

最後に、同友会歴が浅い私に今回このような貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。

第10分科会(中同協)

震災の時代に立ち向かう中小企業の役割とは

～岩手、宮城、福島の現地レポートから危機対応と防災について考える～

(株)高田自動車学校 取締役会長
岩手同友会 代表理事

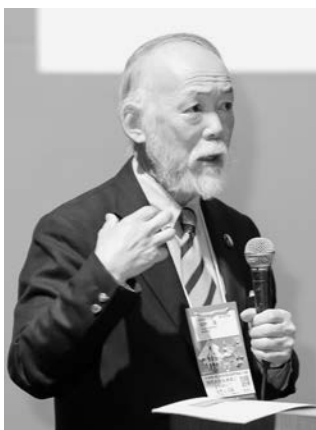
田村 満 氏

丸平木材(株) 代表取締役
宮城同友会 南三陸支部長

小野寺邦夫 氏

アース建設(株) 代表取締役
福島同友会 副理事長

渡部 明雄 氏



室長 敷島 広太(島原支部)

東日本大震災から8年。震災・津波・原発事故・風評被害の中で、逆境に力強く立ち向かってこられた被災3県からの現地レポートで生の実験の体験を聞くことができました。



田村さんからは「未曾有でない自然災害に企業・地域がどう変化し続けるか」と題してこれまで起きてきた大津波の記録と8年間日々変化し続けてきた街の姿、エネルギーシフトを企業・地域再興に生かしてきた経緯などの報告がありました。

小野寺さんからは「南三陸町の存続を賭けた地域・企業の今と未来」と題して震災前・震災時・震災後を振り返って見えるもの、南三陸町の希望と現実を踏まえたビジョンの中での自社経営というものがどうあるべきかを考えておられました。

渡部さんからは「震災復興の光と影、原子力災害を伴う震災復興への経営指針」と題して全会員からのアンケートをとるなどして、人類史上経験のない原発事故を伴った複合災害に遭遇した福島同友会が発災直後から8年間にわたり復旧・復興のための活動と経験を「震災復興経営指針」としてまとめられた大変貴重なものの提示と報告がありました。同友会版BCP(非常時対応事業継続計画)として十分活用できるもので、参加者全員大変参考になり勉強になったと思います。

ここ近年日本のみならず世界的規模で自然災害が増



加しています。私自身も28年前の雲仙普賢岳噴火災害を消防団員として間近で経験しました。他人事とは決して思わず災害はいつでも起きるものと認識することが大事です。我々中小企業家はどんな状況下になろうともできる限り社員や地域のためにも経営を継続していかなければなりません。3人の貴重な体験談を学びと



して企業経営者としての意識と具体的な備え、そしてやはり何より社員や地域との信頼関係を常日頃から築いていることこそが非常に大切なポイントだと考えさせられました。大変意義ある分科会であったと思います。

第11分科会(中同協)

消費税問題の中小企業への影響とその対策はどうするか？

～中小企業・小規模企業の継続・発展のための税制～

(株)第一経営相談所 相談役 沼田 道孝 氏
中同協 税制プロジェクト委員長・埼玉同友会 副代表理事

(株)アライ 代表取締役 新井 俊雄 氏
中同協監事・埼玉同友会 元代表理事



室長 菅 隆信(諫早支部)

2019年10月消費税10%に引き上げられる予定になっております。まず言っておきたいことは、決して景気は良くない中小企業にとっては、とんでもない、まったく反対だ！ということです。沼田さんの話では税金の大原則は公平性、「能力に応じた負担を」をもとに課税されるべきです。所得税の負担の問題、企業における負担の問題、消費税の課税問題など考えると、決して公平性が基本になっているようには思えない。例えばまったく生産性のない株取引などで利益を上げても税率は20%です。これは、どうみても低い税率と思われます。大企業と中小企業の税率が同じです。そして消費税増税の前に税金の使い道を真剣



に検討する必要があると思います。まず国会議員の給料を減額するか、議員数を減らすなど身を切る政策をするべきではないでしょうか。また、増え続ける医療費の問題など解決すべき課題が山積みです。

そして、今回の改正で理解できないのが、インボイス制度「適格請求書等保存方式」の導入です。課税事業者が発行したインボイス(請求書)に記載された税額のみを控除できますが、免税事業者はインボイスの発行ができない。したがって仕入れ税額控除ができないので税負担が増えてしまうのではないかと。そして、小規模事業者は排除されてしまわないか心配です。ある国では消費税を下げることによって、景気が良くなり、税収は増えた国もあると聞きました。

次にお酒やお味噌の卸売りをやっている新井さんの報告では、消費税が与える影響としては、消費の冷え込みが心配です。増税後の売上減やそのままずっと回復できない事業者も出てくるのではないのでしょうか。お酒は消費税と酒税と二重課税になっている。対策としては業務用(飲食店など)の卸を増やしていく。新しい価値、サービスを提供していくことが大事です。

具体的には5年後のビール酒税等の一本化（アルコール50%は同じ税額）に伴い地元の産物を入れた新しいビールの開発を進め、新たなユーザーの開拓を行う、人を生かす経営で地域とともに発展していきたいと話されました。

地域経済を支えているのは中小企業であることを忘れず、政府は中小企業憲章の考え方に基づいて政策を実施してもらいたいものです。



第12分科会（長崎）

地域づくりの鍵は同友会が握る

～振興条例を武器に地域をプロデュース～

大村市長 園田 裕史 氏

(株)大幸企画 代表取締役
長崎同友会理事・政策委員長

時 忠之 氏



室長 下坂 美紀（大村支部）

中国の旧正月「春節祭」を祝う長崎の冬の一大風物詩“長崎ランタンフェスティバル”が終わり、100万人の人々で賑わった長崎の街に余韻を残す間もなく、それはスタートした。2019年2月21日平成最後、第49回を迎える中小企業問題全国研究集会in長崎である。全国から九州最西端の地、長崎に1247名の仲間が集った。少し上気気味の長崎の会員と全国からの仲間が挨拶を交わし、12分科会が始まる。

テーマは中小企業憲章・条例「地域づくりの鍵は同友会が握る」長崎同友会大村支部、時さんを中心とした政策委員会の報告である。報告者には大村市の園田市長も登壇する。そしてこの報告の中で、共に事業を進めて下さった長崎大学経済学部山口准教授とそのゼミの学生たちも顔を揃えた。報告の中心はいかにして条例制定をするのか、ではなくその条例をいかに“生かすのか”。産官学が一体となったその報告は、報告者の時さんの情熱、園田市長の表裏のない生き生きとした言動、そして学生達から我々経営者への辛辣でありながら、若々しく、そして素直で煌めくような報告。会場は徐々に熱を帯び、そしてディスカッション中は、



会員皆が白熱した様子だった。

最後に座長を務めた宮田さんが、「同友会理念の3つ目である、国民や地域と共に歩む中小企業の実践、そして振興条例、振興会議が地域づくりの鍵になる、そのためには私たち中小企業家がこの運動の中心となる覚悟と熱意が必要である」と、この日を締めくくりマイクを置いた。その場には言葉に尽くせない空気が流れていた。私は三木成夫の言葉を想った。

～植物に、もし「循環路」と称するものが存在するとすれば、動物のそれが体内で完結する「閉鎖性」のcircle（サークル）があるのに対し、植物のこれは大地と大気と日光—文字通り天地—と組みになってはじめて成立する。それは「開放性」のroute（ルート）ということになるであろう。この場合動物の体内循環が心臓の搏動によって推進されるのに対し、植物と天地を連結する循環路線は、まさに太陽を中心に成立するものと見なければならない。～





私たちは人間として閉鎖性の circle（サークル）に生きている。しかし、人間が強く熱を持ち、その情熱

が周りの存在と循環し始めると、まさに生命の印である植物のように開放性の route（ルート）が生まれると感じた。この場に集った人達がこの route（ルート）を胸に秘め、各地に、各自の人生に戻り、覚悟を決めた時、そこでどのような花を咲かせるのか、そのことを考え胸が熱くなった。そのような一日であった。

参考：『生命形態学序説』 三木成夫著 うぶすな書院

懇親会

懇親会部会長 加瀬 和利（長崎出島支部）



懇親会は、約 1300 名という参加者のため、ホテルニュー長崎の会場を 5 か所に分け、メイン会場を 3 階の鳳凰閣とし開催されました。司会者は、諫早支部の太田さんと北松浦支部の宮田さんが坂本龍馬とおりのうさんになっていただき進行していただきました。

長崎県立希望が丘高等特別支援学校の和太鼓部の演



奏から懇親会は始まりました。真剣な表情の生徒 10 名の力強い太鼓の演奏は、感動的で参加者が引き込まれ聞いていただいているように感じ、会場の一体感を感じました。

そして、松尾全研実行委員長の歓迎の挨拶、中村県知事の来賓挨拶をいただき、横田全研副実行委員長の乾杯の発声で歓談となりました。料理は、長崎県ならではの食材とちゃんぽん・皿うどんの提供ブースも設け、堪能していただきました。

その後、五嶋町くunchi協賛会の龍踊が披露されました。五嶋町の龍踊は、長崎浦上支部の小川さんが属しております。龍は緩動と静動の躍動感あふれ、ステージでは長崎県の各支部長と古里会員が登壇し「もってこーい！」の掛け声が会場に響き、長崎らしさを県外の会員の皆さんに感じていただけたと思います。

懇親会の終盤は、中同協エコ表彰と中同協行事 PR がありました。中同協行事 PR は、①広島・女全交、②東京・定時総会、③熊本・青全交、④滋賀・障全交、⑤京都・全研と順番に登壇して行事 PR をしていただ



きました。そして懇親会の最後は、山領全研副実行委員長長の締め挨拶で終了しました。

懇親会部会は、「笑顔の懇親会部会」として、また他県から参加される方々に長崎ならではの文化に触れていただきたいと思います、約1年前から準備をしてきました。そんな思いや長崎の素晴らしさが参加された方々に、少しでも届けることができたら幸いに思います。



第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 ご来賓の皆様

(順不同)

長崎県知事	中村 法道 様	商工組合中央金庫 長崎支店 支店長	増田 利幸 様
大村市長	園田 裕史 様	商工組合中央金庫 佐世保支店 支店長	小村 英司 様
長崎県 産業労働部 部長	平田 修三 様	株式会社 十八銀行 取締役 常務執行役	中島 博明 様
長崎県 産業労働部 産業政策課 課長	大庭 茂雄 様	株式会社 親和銀行 取締役頭取	吉澤 俊介 様
長崎市商工部 部長	片岡 研之 様	株式会社 親和銀行 常務執行役員	石丸 高 様
西海市西海ブランド振興部 部長	村野 幸喜 様	西海みずき信用組合 理事長	陣内 純英 様
長崎県中小企業団体中央会 事務局長	村里 光博 様	国立大学法人 長崎大学 経済学部 准教授	山口 純哉 様
長崎県信用保証協会 会長	田中桂之助 様	長崎放送株式会社 代表取締役社長	東 晋 様
日本貿易振興機構 (ジェトロ) 長崎貿易情報センター 所長	松尾 修二 様	長崎放送株式会社 常務取締役	藤井 潤 様
日本銀行 長崎支店 支店長	平家 達史 様	株式会社 テレビ長崎 代表取締役社長	宮前 周司 様
日本政策金融公庫 長崎支店 支店長兼国民生活事業統轄	淵上 眞吾 様	長崎文化放送株式会社 メディアビジネス局長	石山 俊介 様
日本政策金融公庫 長崎支店 中小企業事業統轄	神庭 義明 様	株式会社 日本経済新聞社 長崎支局 支局長	古宇田光敏 様
日本政策金融公庫 佐世保支店 支店長	島口憲一郎 様	大村市産業支援センター センター長	若杉 誠司 様

第4回 中同協 共同求人・社員教育合同委員会 参加報告

2019年1月29日、30日の2日間に渡って、第4回中同協 共同求人・社員教育合同委員会が、東京のTKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて開催されました。

委員会では、「共同求人活動で企業が変わり、地域が変わる」と題して、埼玉同友会の三角武一郎会員による自社、および埼玉同友会の共同求人委員会の実践報告がありました。その後のグループディスカッションでは、各県の共同求人委員長らが「共同求人活動の理念をどのように広げていきますか」をテーマに、各県の取り組みを交えながら熱く議論を交わしました。

2日間を通して各県から話に登ったのが、「なかなか人が採れない」「合同企業説明会に学生が来ない」閉塞的な状況でした。しかし、この状況に、佐藤全共同求人副委員長は、「共同求人活動が単なる人集めになってはいないか？共同求人意義や、共同求人は地域の社会教育運動である本来の理念を忘れ、目的が行事消化となっていないか？各委員会活動が横断的ではなくセクト化されていないか？」と閉塞的な状況は各県の委員会活動も加担していないかと提言がありました。「中小企業を取り巻くこの厳しい状況においても、いい会社は定期採用ができています」とお話をされたのは小暮共同求人委員長。佐藤副委員長は「採れる会社と採れない会社、その違いは三位一体の経営ができてい

るか否かである。三位一体の経営ができて初めていい会社と言える」と問題解決策は同友会活動にあることを再確認されました。

今年度設立された長崎同友会の共同求人委員会は、初年度は「共同求人流布の年」として、8支部中6支部の例会で共同求人についてお話させていただきました。例会のメインテーマは、「選ばれる企業づくり」でした。目先の人採りの話はせず、「三位一体の経営ができて初めていい会社」となり、若者を始めとした求職者から選ばれるロジックを説いていきました。

長崎同友会共同求人委員会の次年度の活動は、継続した「選ばれる企業づくり」の流布活動と「地域・学校とのパイプ作り」の2本立てとなります。佐藤会員の「共同求人委員会は社会教育運動でもある」という言葉にもあるように、地域・学校とのパイプ作りも、単なる接点を持つだけでは同友会らしい活動ではありません。パイプ作りとは、学校や学生、そして家族に中小企業の価値を知ってもらい、また、地域の中小企業の活動が、地域経済を活性化し、そこに住む住民の生活の向上に貢献していることを知らせることが目的となります。

共同求人委員会の活動が、単なる人採りの活動ではないことを更に深く理解できた2日間でした。

(文責 県共同求人委員長 橋口 久)

What is 共同求人？

県共同求人委員長 橋口 久

共同求人委員会連載コラム 第11回

山形大学、山形同友会と連携した インターンシップが文部科学省全 国優秀賞を受賞！

文部科学省が今年度から初めて実施した表彰制度「大学等におけるインターンシップ表彰」において、山形同友会と連携した山形大学のインターンシッププログラムが、第1回最優秀賞を受賞しました。

山形大学はインターンシップ受け入れ企業団体先として同友会を選定し、1年生向けインターンシッププログラムを実施しました。5年前から実施し、山形大学と山形同友会共同求人委員会・共育委員会が中

心となってカリキュラムを作成。2017年度は、1年生43名が参加し、同友会会員企業は、25社が受け入れ先となりました。

合同企業説明会で学生と接点を持つことが中心だった同友会の共同求人活動ですが、今後は、長崎同友会でもインターンシップが主流となってくるでしょう。インターンシップは、大学・学生・受け入れ企業の三者にメリットのある取り組みです。企業側は、学生を受け入れることによって、自社の経営と組織を見つめ直し、共育による組織改革の機会、魅力ある企業づくりをする機会を得ることが出来ます。また、学生は、中小企業の魅力、地域の魅力を発見する機会を得ることが出来ます。

来期は長崎同友会でも共育委員会と共同で長崎同友会らしいインターンシッププログラムを構築します。プログラム実施の際は、ぜひ受け入れ企業となってください。

事務局企業訪問

今回は五島市岐宿町で農業を営む五島支部 山下勝志さん（(有)ファームランド五島）にお話しをお伺いしました。

【ファームランド五島】

1973年に山下さんのお父さんが創業。農業機械の販売・修理を行っていました。農業機械はひとつの農家が年間で使う期間がほんのわずかだったため、個人で買うのはもったいないと思い、自社で機械を買ってオペレーターつきで受託作業を始めます。最盛期には受託作業量が120丁（120万㎡）まで広がりました。

現在は山下さんも畑を持ち農作物を生産、主な生産品はお米・麦・ブロッコリー・大豆等です。お米はミルキークイーンという品種を生産、盆地で山に囲まれ寒暖の差が激しい気候が稲の生育条件に奇跡的に合致しておいしいお米を作ることが可能となりました。甘味があり、もちもちと美味しいお米でコシヒカリよりも高値で取引をされています。

【事業の承継】

山下さんは高校卒業後、福祉の専門学校に進学、そのまま福祉業界に就職します。好きな仕事だったので、楽しみながら充実した日々を過ごしていました。しかしある日、お父さんががんを患っていることが分かり、いつどうなるのか分からない状況となりました。山下さんはお父さんの仕事をずっと見ていたので、大変さもどれだけ地域に必要とされているのかも分かっていました。跡を継ぐかどうか悩み、そんな時に奥さんからの「今の仕事の代わりはだれがいる。あなたが60歳過ぎたらどうするの？田んぼ作ったりするよね。それなら今するべきじゃないの。お父さんに今ならいろいろ聞けるよ。」という言葉に背中を押され、跡を継ぐことを決意します。そして引き継ぎをしますが、覚えること・やることがいっぱいでした。最初はてんやわんやの状況でした。

その後、お父さんが体調を崩し入院、社員さんが仕事の流れを把握していたのでなんとか乗り越えることができました。最初の1年でだいたいの流れをつかみ、社員さんに教わりながら、2年目には山下さんも受託作業をしました。最初は上手にできず、きれいにできなくて申し訳ないと思っていたのですが、バリバリとこなすうちにどんどん上達して3年目には自信を持てるまでになったそうです。

【同友会との出会い】

とある会合に参加した時に島原支部の落水さんと出



会い、五島に同友会ができるということで同友会を知る会に参加、入会します。

初めはグループ討論が苦手で、1～2年は例会に参加するだけでした。しかし役員になると会への接し方にも変化が出てきました。苦手だったグループ討論も、意見を出し合って進めていくことに面白みを感じ、会活動がどのように運営しているか知ると、主体的にかかわるようになりどんどん学ぶ機会が増えたと感じるようになりました。

今後は自分が体験したことをもっといろんな人に感じて欲しいと思うようになり、新たに役員になる人をサポートしたいと話していました。

【今後の展望】

山下さんは今後の展望について、生まれ育った土地の景観が荒れることがないように、今の仕事をしっかりと続けていくことで地域を守っていききたい、そして1番は社員が幸せに暮らすことができるような環境を作りたい。そのためにこれからも学んでいきたいと語られました。

取材の当日は雨が降る日でしたが、遠く of 山まで田や畑が広がる美しい景色を見ることができました。この景色が永く残ること、そして山下さんの事業のますますの発展を祈念いたします。

<会社概要>

(有)ファームランド五島

〒853-0312 長崎県五島市岐宿町中嶽1026

TEL：0959-83-1075 FAX：0959-83-1090

(文責 事務局 田口 友廣)

新入会員の皆さんです < 2月入会・交代・復会 > (敬称略)

< 入 会 >

支 部 名	長崎浦上支部	
氏 名	かわうち じゅんのすけ 川内 順之助	
企 業 名	(株) A・T・O・M	
役 職 名	代表取締役	
企 業 住 所	〒850-0012 長崎市本河内2丁目24-31	
T E L	095-828-8755 F A X 095-828-8780	
業 種	危険物施設保守	
企 業 PR	地下タンク漏洩検査を主に危険物施設の保守サービスをやっています。油配管・タンクの設置・修理等全般行います。	
スポンサー	大城 あゆみ	

支 部 名	長崎浦上支部	
氏 名	ほり だいすけ 堀 大祐	
企 業 名	弁護士法人 松本・永野法律事務所	
役 職 名	社員	
企 業 住 所	〒850-0033 長崎市万才町10-3 サンガーデン万才町302号	
T E L	095-828-1705 F A X 095-828-1773	
業 種	弁護士	
企 業 PR	お気軽に何でもご相談ください。	
スポンサー	吉澤 健	

支 部 名	長崎出島支部	
氏 名	きしかわ えみこ 岸川 恵美子	
企 業 名	エミリーリフォームデザイン	
役 職 名	代表者	
企 業 住 所	〒856-0804 大村市大川田町1001-14	
T E L	0957-46-3226 F A X 0957-46-3226	
業 種	リフォーム・内装デザイン	
企 業 PR	リフォーム、新築のデザイン設計、アートの販売をしています。	
スポンサー	菅原 千代枝	

支 部 名	長崎出島支部	
氏 名	せがわ じゅんや 瀬川 潤也	
企 業 名	スナック道	
役 職 名	代表者	
企 業 住 所	〒850-0841 長崎市銅座町12-10 第一銅座ビル2F	
T E L	095-825-6698 F A X	
業 種	飲食業(スナック)	
企 業 PR	・セット 3,000円(ボトルキープ) ・飲み放題 3,500円(90分) (全てカラオケ込)(スタッフドリンク500円) ・人数によって価格交渉OK	
スポンサー	本多 邦暁	

支 部 名	長崎出島支部	
氏 名	はまぐち よしき 濱口 嘉樹	
企 業 名	九州冷機	
役 職 名	代表者	
企 業 住 所	〒850-0852 長崎市万屋町5-33-407	
T E L	095-801-0300 F A X 095-801-0322	
業 種	厨房機器販売、空調設備・清掃	
企 業 PR	・厨房機器の新品・中古品販売、修理 ・空調設備 ・エアコンクリーニング	
スポンサー	本多 邦暁	

支 部 名	長崎出島支部	
氏 名	ふるかわ たかし 古川 孝司	
企 業 名	(株) Green	
役 職 名	取締役社長	
企 業 住 所	〒851-0251 長崎市田上4丁目7-29	
T E L	095-820-8040 F A X 095-820-8260	
業 種	白蟻消毒・リフォーム	
企 業 PR	白蟻消毒を主体とし、通常では見えない床下、天井裏の状況を点検、工事を行いますので配管の漏れや錆び、雨漏れの早期発見の報告ができるので一軒の家を立体的に内部まで総合管理ができます。	
スポンサー	本多 邦暁	

支 部 名	大村支部	
氏 名	いのせ ひろし 一ノ瀬 浩	
企 業 名	(有) 保険のイチノセ	
役 職 名	代表取締役	
企 業 住 所	〒856-0826 大村市東三城町4-6	
T E L	0957-53-9876 F A X 0957-27-3092	
業 種	保険代理業	
企 業 PR	地域の皆様のお陰を持ちまして創業より41年を迎えることができました。「熱意、誠実、行動」をモットーにあなたに寄りそう保険代理店です。どうぞよろしくお願いいたします。	
スポンサー	上谷 直人	

支 部 名	大村支部	
氏 名	たかくら たらう 高倉 太郎	
企 業 名	(株) 体育健康一二三堂	
役 職 名	代表取締役	
企 業 住 所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-12-17 オフィスニューガイヤ博多駅前3F	
T E L	090-8668-3034 F A X	
業 種	健康・体操関連イベントの企画運営管理・健康体操指導	
企 業 PR	独自の体操理論を持ち、その理論の商標登録を取り、体操指導者を全国に誕生させ、地域に愛され必要とされる企業。	
スポンサー	中山 佳世子	

3月理事会 報告

3月7日(木) つくば倶楽部 出席22名 欠席14名

開会あいさつ (抜粋) - 金井代表理事

まずもって全研を大成功で終えました。第6・12分科会の報告者、各支部特に長崎浦上と長崎出島の2支部の誘導や懇親会などスムーズな進行となり大変お疲れ様でした。現在アンケートや収支をまとめてもらっていますが、お出迎え、お見送りなどの歓迎ぶりに関しては高い評価をいただいているようです。分散型となった分科会も大きな苦情もなく終えて何よりです。しかし「宴の後に何を残すか」。今日も支部長の出席は少なくなっていますが、3月例会はしっかりと声をかけ一人でも多くの参加となるようお願いします。本日はよろしくお願いします。

仲間づくりについて

1) 入会・復会交代・交代・交代企業変更・退会・企業変更の承認について
- 4名の入会、1名の復会交代、1名の交代、1名の交代企業変更、1名の企業変更、8名の退会を承認

2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について

- ・原田仲間づくり委員長 総括 -
※原田委員長欠席のため田中副委員長より
全研時800名という目標に対し達成できずすみませんでした。3月8日に委員会がありますのでしっかりと反省したいと思います。全体的に取り掛かりが遅かったという点、マニュアルをブラッシュアップしスケジュールややるべきことを精査することが大事だと思います。今後は準備、行程表などを確認し、来期に向けての準備を進めていきます。また年間表彰として、スポンサー賞を大村の宮崎会員と諫早の山口会員、支部賞として佐世保支部を定時総会時に表彰します。
- ・金井代表理事 -
ここにきて足踏みしていると思います。3月は年度末ということもあり、退会者がでるということも聞いています。このままずるずると行くと例会参加率も下がるのが懸念されます。会への帰属意識をしっかりと持って仲間づくり委員会が積極的に動いていただきたいと思います。また委員会開催についても日程の変更や、開催場所が未定など曖昧な点も多いことが残念に思います。会社で例えるなら営業本部といえる仲間づくり委員会ですので、決まった日に、決まった場所でしっかりと開催できるよう、またここまで9年連続で純増している流れを絶やさぬよう、また委員会で協議をお願いします。

協議・承認事項

- 1) 来期に向けて
- (1) 活動活性化対策費について - 上野財務委員長
《三役会提案内容と確認依頼事項》
- (1) 「活動活性化対策費」を計上
- (2) 「活動活性化対策費」は、県全体に関わる活動の活性化のために拠出することを再確認
→上記三役会案を承認
- ※補足として
金井代表理事 - 再度になりますがこの活動活性化対策費は

あくまでも会全体の活性化につながる提案となりますので
でよろしくをお願いします

(2) 定時総会について - 山田事務局長

- ・開催日 - 4月19日(金)
- ・会場 - 諫早観光ホテル 道具屋
- ・懇親会参加費 5,000円
- ・記念講演講師 -
(株)植松電機 代表取締役 植松 努氏(北海道同友会)

《三役会提案内容》

(1) 講演テーマ

「思うは招く」～夢があればなんでもできる～

→講演テーマを承認

(2) 参加目標案

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
会 員 数	113	114	102	92	68	184	43	31	747
目 標	32	33	38	50	22	54	13	8	250
目標/会員数(%)	28.3	28.9	37.3	54.3	32.4	29.3	30.2	25.8	33.5

→参加目標を承認。上記目標は総会に登録の会員のみ。
ゲストは含まないことを確認

3) 年間予定について - 山田事務局長

- ・例会日程の調整のお願い(特に同地域内で互いに行き来ができる様に)

→日程を確認。6月の県央3支部合同例会に関しては6月19日を確認。各支部の例会日程の重複が見受けられるため例会参加の機会を増やすためできる限りの調整を各支部へ依頼。来期以降は支部役員会で決定する前に、事前に各支部長で協議を行い調整する方向性を確認

4) 経営フォーラムについて - 馬場諫早支部長

- ・開催日 - 10月19日(土)
- ・会場 - 国立諫早青少年自然の家
- ・記念講演講師 - 副島 正純氏(一般社団法人ウィルチェアアスリートクラブソシオSOEJIMA)

《承認依頼事項》役員体制 - 今回は、「正副実行委員長とアドバイザー」まで

→実行委員会組織案を承認

5) 役員研修会について

《三役会提案内容》 講師に中同協 鋤柄相談役を招聘(9月21日から日程変更の可能性あり)

→鋤柄相談役を招聘することを承認

報告・連絡事項

1) 2月 県本部・支部・委員会等の活動状況について
《委員会等》(抜粋)

経営 労働	1) 経営者塾の開講 2/26 小規模事業者会員向け経営指針実践セミナーNo.2 開催 2名参加
	2) 経営指針実践セミナー2018の開催 県主催 終了 島原 2/12 No.6開催 5名参加/7名申込 北松 2/25 No.6開催 8名参加/12名申込
	3) 県委員会活動、支部委員会活動の活発化 大村支部 経営理念検討会 支援 1/21と2/6 永野会員作成

共育	研修予定 3月9日(土) 第三回新入社員フォローアップ研修 ／場所：長崎インターナショナルホテル 4月1日(月) 合同入社式／場所：長崎インターナショナルホテル 今回の「社会人とは」講演は横田副代表。ぜひ多くのご参加をお願いします。
政策	■【2月活動報告】 政策委員長として全研第12分科会の準備に努めました。 ■【長崎全研の振り返り】 担当分科会では憲章・条例推進を最大の目的として開催しました。報告手法も大村市長・山口准教授や長崎大学生にも登壇いただいた結果、伝えたい内容がより説得力を持ったのではないかと思います。終了後の感想も有難い反応を多くいただいた。最終アンケート結果を待ちたい。 ■【3/20(水)長崎景況レポート2018開催】@長崎商工会館2Fホール 14:00～16:30 本年政策委員会の新たな取り組みとして長崎大学との連携事業となる「県内企業(同友会)ヒアリング調査」を行った。その結果をまとめたレポートが完成しましたので、県内会員はもとより他団体の皆様にも呼び掛けて発表会を行います。 今回学生からの視点、また今後社会に出る若者からの視点を交えた素晴らしい報告集になっている。田上市長も限られた時間ではあるがご出席いただける。振興条例と振興会議が持つ意味、同友会がこのようなことをしているというアピールのチャンスでもあるので成功させたい。
情報 広報	2月25日(月)19時00分～同友会事務局にて委員会を開催。 1. 広報誌 編集会議 2. ホームページについて 3. e.doyu利用 1月アクセス→58% 行事への返信登録→50% 4. その他・情報交換
仲間 づくり	全研大変ご苦勞様でした。本大会に向け、なんとか800名を達成したかったのですが、力及ばず申し訳ございません。3月8日佐世保にて県委員会を開催します。 《仲間づくり 年間表彰》 ＜最優秀スポンサー賞＞ 5名 大村支部 宮崎会員・諫早支部 山口会員

	＜最優秀支部賞＞ 佐世保支部 28.5名(1名は北松浦支部会員と二人で推薦)
ダイバー シティ	・2/21・22 全研では第6分科会の報告、無事に終えることができました。涙、笑い、歌ありのいい報告だったとたくさんの方に言っていただき嬉しかったです。全国にダイバーシティを伝えられたことが一番の成果です。本当にありがとうございました。 ・3/1 中同協障害者問題委員会(埼玉)中村、菅原 ・3/5 委員会開催
共同 求人	【インターンシップ受け入れ事業の準備】 今後の大学からの新卒採用は、合同企業説明会は残りながらも、大学生のインターンシップ主流の時代が到来する。インターンシップは使い方次第であり、企業においては社員教育に大きな効果が期待できる。共同求人委員会では、全国同友会の先進事例を学びながら、共育委員会と合同で、長崎県に合ったインターンシッププログラムを検討していく。
青年 経営 者会	2/14役員会にて全研、誘導部会と3月21日ハタ揚げ大会を検討、承認。その他2/4熊本、2/19福岡にて2/22の全国青年部連絡会のシミュレーション。本番の青年部連絡会は学び多い会となりました。

2) 例会について(更なる充実をめざして)－本多例会委員長 各支部2月例会は全研を充当し、注力されてきたと思います。この全研の熱を今後にどう生かしていくかということが大事です。全研の熱をそのまま生かしましょう。目標達成ができなかったとしても達成に向けての姿勢は次の例会に向けて必ず生きてくると思います。達成に向け、ぜひ役員会で確認をお願いします

3) 第49回中小企業問題全国研究集会を振り返って(2月21・22日)－金井代表理事
皆様、たいへんお疲れ様でした。ご理解、ご協力 本当にありがとうございました。今回の経験を宝に、長崎同友会50周年(2022年)に向けて邁進いたしましょう！

4) 支部移動会員について
→2名の支部移動を確認

※次回開催4月10日(水)17時～ ホテルニュー長崎

会員動向

●企業住所等変更 藤澤 康生 会員 (佐世保支部)
新役職：代表取締役社長

会 員 数 (3月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	150	130	125	100	100	200	55	45	(1000)
期首	113	105	87	79	66	160	43	31	684
現在	112	113	102	90	68	184	43	31	743

退会者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部名	入会年月
宮 崎 涼 子	(株)地中海	長崎浦上	2012年 7月
武 富 小 夜	T企画	長崎出島	2018年 3月
平 元 洋	(株)しまばら創生	島 原	2017年12月
安 永 法 輪	安永行政書士事務所	島 原	2018年 3月
上 杉 芳 邦	(株)プラスセブン	佐 世 保	2017年12月
齋 田 直 喜	(株)九十九島産業	佐 世 保	2018年 9月
中 谷 聡	(株)はさみプロジェクト	佐 世 保	2014年11月
木 場 純 子	五島訪問美容	五 島	2017年 6月

4月例会・支部総会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部

日 時 4月25日(木) 18:00～
会 場 サンプリエール
内 容 支部総会

●長崎出島支部

日 時 4月25日(木) 18:00～
会 場 サンプリエール
内 容 支部総会

●大村支部

日 時 4月25日(木) 18:30～21:15
会 場 長崎インターナショナルホテル
内 容 支部総会

支部総会において、県総会の決定事項の確認、2018年度決算、2019年度予算の確認。支部長、各委員長の活動方針の確認などを行う。その後、委員会別に集まり委員会ミーティングを開催、委員長の活動方針をうけて、方針の共有、役割分担などを話し合う。

●諫早支部

日 時 4月25日(木) 18:30～21:30
会 場 四季の蔵 食楽亭
内 容 支部総会

●島原支部

日 時 4月24日(水) 19:00～21:00
会 場 HOTEL シーサイド島原
内 容 支部総会

●佐世保支部

日 時 4月23日(火) 18:30～
会 場 グランドファーストイン佐世保
内 容 支部総会

●北松浦支部

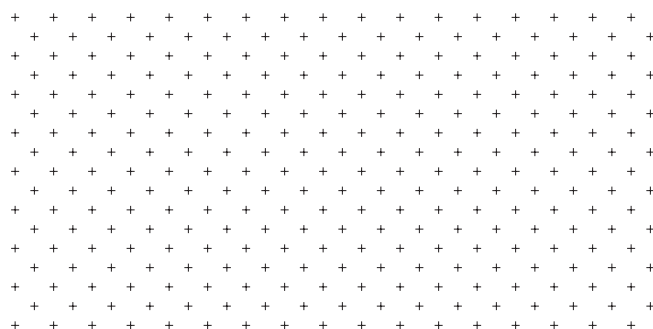
日 時 4月23日(火) 18:00～21:00
会 場 松浦シティホテル
内 容 支部総会

●五島支部

日 時 4月25日(木) 18:30～
会 場 観光ビル はたなか
内 容 支部総会

●青年経営者会

日 時 4月18日(木)
会 場 シーハットおおむら
報 告 者 (同)S・R・S 代表社員
飛田 精一 会員



投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数／約 500 字

●画像／歓迎します

☐掲載／情報広報委員会にて選考

☐投稿先／情報広報委員または同友会事務局まで

☐メール／jimu@nagasaki.doyu.jp



折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月20日～月末に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。**A3チラシは2枚分**となります。ご利用お待ちしております。

長崎全研を終えて

第49回中小企業問題全国研究集会 in 長崎
実行委員長 松尾 慶一

昨年2月8～9日、47名の長崎同友会の仲間達と兵庫全研へ参加し次回開催地のPRをいたしました。そこで閉会挨拶を行い全国の友に「平成のメは長崎全研ばい!」と宣言してあっという間の1年でした。顧みれば、全研を招致しようと理事会で声上がり中同協の幹事会でロビー活動をし、やっと数年後に実現の運びとなりました。ありがたいことに、前段として2017年5月に中同協役員研修会 in 大村を開催し、国吉顧問・鋤柄会長・広浜幹事長の最後の三役お揃いが実現しました。大村支部の立候補に大変、感謝いたしました。

その頃から、長崎全研の意義は何なのかと自問する中で、耳にするようになった「全研までは松尾代表理事頑張って」との激励に違和感を覚えだしました。全研は長崎同友会の更なる飛躍の踏み石であり、私のご苦勞さん会にはしてはならない。そう確信し10年の節目で代表理事から退くことを決意し、全研の実行委員長に立候補いたしました。

以来、全国を回り一人でも多くの仲間に長崎へ足を運んで貰えますようにと楽しく!明るく!元気に!挨拶をして参りました。日が経つにつれ事務局を中心に三役会・理事会が熱を運び、とうとう2017年11月20日に第1回長崎全研実行委員会を開催しました。その時の私の第一声は忘れもしません。「長崎同友会1000名で全国の仲間をお迎えしましょう!」と言いながら、やればできると信じて参りました。お陰様で金井代表理事を先頭に3名の副代表理事の強力なバックアップと全8支部の支部長の支援に加え素晴らしい実行委員の皆様を選出していただきました。

そして、あまりの人気に申込み受付を一旦クローズするハプニングもあり、全国の方々にも地元長崎の会員さんにもお断りをしなければなりませんでした。しかし、登録はできなかったが応援はするという心暖かい会員の皆様のサポートもいただき当日の案内誘導を含め朝早くから手伝っていただきました。本当に感謝!感謝!感謝であります。

初日の長崎駅で金井代表と全国の友をお迎えした事から始まり、23日夕方に鋤柄相談役と広浜会長を飛行機が出るまでの2時間懇談し参集した参加者から、次は何の大会を長崎でやろうかと熱い話が止まらない素晴らしい長崎全研でした。関わっていただきました全ての皆様、本当にありがとうございました。

